

連続して発生する「命」を脅かす事故・事象に対し「責任追及」「運行優先」体質から  
「原因究明へ」の安全文化を再確立し、安全第一の新幹線職場をつくりだそう！

2024年3月6日、「つばさ121号」が郡山駅の所定停止位置から約520mオーバーランした。郡山駅に進入する際のポイントの速度制限は80km/h だが、その倍近い速度の145km/h で通過した。また、このポイントを通過する際の大きな揺れで、洗面所にいたお客さまが壁に肩を強く打ちケガをされた。

JR東日本会社は3月19日に、この事象に対し緊急対策と今後の対応について公表した。滑走などの原因については、第三者機関の協力のもと引き続き調査するとし、緊急対策としてE3系単独運転のときには、宇都宮・福島駅の間で早めにブレーキをかけることやE2・E5系の併合などを対策としている。この重大な事象に対して、JR東労組は緊急申し入れを提出している。その一方で、私たちの緊急申し入れの団体交渉や社内周知をするよりも、これらの報道がされていることは、事故対策や同種事故を繰り返し発生さないためにどうしていくかよりも、世間体を重視した対応であったのではないかと感じざるを得ない。

なぜなら、今回の事象は初めてではないからだ。2022年12月18日にも、郡山駅で「つばさ159号」が160mオーバーランしている。この事象に対してJR東労組は、去年の団体交渉で「原因の究明」と「L編成(E3系)の単独ではなくJ編成(E2系)との併合運転」を求めてきた。しかし会社は「滑走発生時の回生ブレーキ制御に問題があった」とし、対策としてCIソフト改修を行ったと回答した。

私たちの声は「受け止める」としながらもL編成の単独運転を継続させ、今年度に入っても3月6日の事象以前に、郡山駅でL編成単独運転での滑走による減速不良は発生していた。昨年発表した「グループ安全計画2028」では『「これまでは想定外であったリスク」を本質の理解により想像し、安全を先取る』としているが、滑走による減速不良が発生している中で、その原因を掴み、どのように対策を立てていたのか？いささか疑問でならない。

3月17日の朝日新聞で「ポイント制限は乗り心地のために設定されたもので、倍の速度で通過しても脱線の危険性はなかった」と、怪我をされたお客さまがおられたにも関わらず、JR東日本の驚きのコメントが掲載されていた。

そもそも「ポイント制限は脱線の恐れもあることから、必ず守ること」と教育してきたはずだ。会社は、組合員がミスすれば「事情聴取」「日勤教育」「パワハラ」などと責任追及に奔走し、ときには病気や休職まで追い込み、そして処分と強制配転を未だ敢行してきている。宇都宮運輸区の組合員は、速度オーバーをして、パワハラと言える日勤教育や決意文の書き直し、「運転士を一回クビになったんだから」とまで暴言を吐かれ、病気となり、休職を余儀なくされている。このように会社は責任追及に奔走し、仲間たちのハンドルを奪っておきながら、「ポイント制限は乗り心地のための設定」といったコメントは、鉄道事業を司る私たちからすれば違和感を感じない。

当該運転士が「死ぬかと思った」と証言していると聞いた方もいるように、誰しもが福知山線脱線・転覆事故を想起する事象であったのではないだろうか。だからこそ、今回の新聞のコメントは「命に関わる事象」といった危機感とは伝わらず、「想定外を想定内にして安全を守る」といった姿勢とは大きくかけ離れていると言わざるを得ない。

昨年末に新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」と掲示が出された。その掲示以降も、1月23日に東北新幹線 上野～大宮駅間での架線垂下による停電事故と復旧作業中での感電事故や、2月1日には65B列車が破損した防護柵と衝撃するなど、命を脅かす事象が連続して発生しており、さらに大きな事故が発生するのではないかと強い危機感を抱いている。更に24春闘では、過去最高額のベアに「過去最大の格差」の賃上げとなった。このような「格差」が拡大すると、評価を気にするばかり、正しい報告がされない恐れがある。すると、事故・事象が隠蔽されかねず、真の原因究明ができなくなる。

だからこそ職場の中に「責任追及から原因究明へ」の安全文化を再確立しなければいけない！そのために「自分の命・仲間の命・お客さまの命」を守るための安全議論を全組合員で実践しよう。また乗務などで感じた「危ない」「おかしい」などの違和感を発信し、全体に共有していこう。職場の声を基礎に「命」を最大の価値基軸に、「安全」を第一にした職場風土をつくるために、JR東労組新幹線協議会は、幹本申12号「新幹線の安全を脅かす事象への徹底した原因究明と対策の実施を求める緊急申し入れ」の交渉を強い決意で臨んでいく！

2024年3月22日  
東日本旅客鉄道労働組合  
新幹線協議会